

# 「お金」と「気持ち」の見える化で、中小企業を元気にしたい。

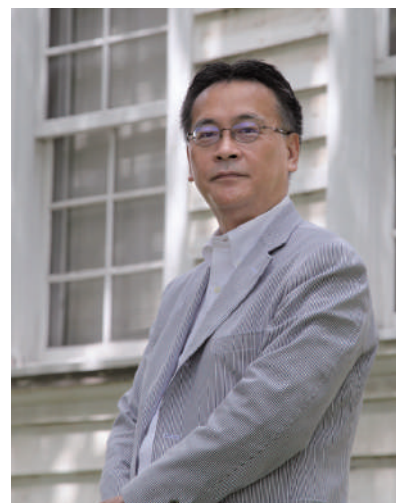
管理会計コンサルタント養成塾 塾長 フジモトコンサルティングオフィス合同会社 代表社員 藤本 康男

かつて私は日本を代表するメーカーに18年間勤務していました。そこでの仕事はスケールも大きく刺激的なものでした。しかし、時に効率性や生産性を追い求めるあまり、知らないうちに、働く人の気持ちが置き去りにされることもあったのではないかと思います。中小企業をご支援する中でわたしは、働く人の気持ちを大事にすることの重要性に気が付きました。

人は、理屈だけでは動きません。納得して初めて動くのです。大企業のように組織の論理が貫徹しない中小企業ではなおさらです。そのためには、まず、働く人の気持ちを引き出すことが大切です。気持ちを引き出すためには「会話」が必要です。いわゆるコミュニケーションです。しかし、会話をするには実は簡単ではありません。会話をするためには、数字（現場データ）を活用しなければなりません。

管理会計という手法を使って、ミーティングを実施することで、会話を作り出します。その会話の中から、やるべきことを具体化し、主体的に実践してもらうのです。会社にとって良いことを継続してやり続けるのですから業績が良くならないわけがありません。

管理会計コンサルティングは、社長だけではなくスタッフの皆さんと会話することで会社の内部から企業を変革していきます。社長の経営理念とスタッフの主体性を両輪に企業を力強く再生します。みなさんとお会いできることを楽しみにしています。



## 卒塾生の声 Voices of management accounting consulting training school graduates



高松4期 佐竹正浩さん 40代  
佐竹正浩 税理士事務所 代表税理士  
税理士 キャッシュフローコーチ®

新事業として製造業に進出された顧問先を支援するにあたり、管理会計を体系的に学び、実践的なサポート力を高めたいと考え京都から受講しました。塾では、管理会計を軸とした支援の「考え方」と「進め方」を具体的に学ぶことができました。特に、実際のコンサルティング現場で行われている会議の映像を通じて、支援の進め方をリアルに理解できた点が非常に印象的でした。理念策定や合宿の実践、受講生同士の事例共有など、すぐに現場で活かせる学びが多く、実務への再現性の高さを実感しています。今後は、管理会計を軸とした顧問先支援により一層注力していきたいと考えています



高松3期生 櫻井真佑美さん 30代  
合同会社櫻井経営コンサルティング事務所  
代表社員 中小企業診断士

独立後の強みを作りたいと思い大阪から高松に通い養成塾を受講しました。大手コンサルファームでの経験や経理知識はありましたが、管理会計を“現場でどう使うか”までは見えていませんでした。塾では、コンサルとしての在り方からデータを使った課題発見・改善の進め方まで学べました。実際に現場で使っている実践的な資料や実際の会議ビデオを惜しげもなく共有してくださったのでコンサル現場のイメージが掴めました。独立後すぐに顧問先を獲得できたのは養成塾のおかげです。数字を根拠にした提案で利益改善に貢献でき、自信を持って支援しています。



高松1期 出口経尊さん 50代  
心楽パートナー株式会社 代表取締役  
MBA経営コンサルタント  
キャッシュフローコーチ®

建設業を中心に、管理会計を用いた収益向上の経営支援を行っています。養成塾ではキャッシュフローやビジョンから目標を描き、行動につなげる「見える化」を体系的に学びました。数字の見せ方や視点、ビジュアルの工夫によって進捗や課題が一目で共有され、社長だけでなく幹部の採算意識も着実に高まっています。

社長が実務に追われず経営に向き合える時間が生まれ、事業を安定的に継続・発展させる支援につながっていると感じています。



徳島1期 塚原喬さん 30代  
塚原 喬 税理士事務所 代表税理士  
税理士 中小企業診断士

徳島の若手税理士として、社長への提案だけでは会社を変えられないと悩んでいました。社員を巻き込む必要性は感じつつも、研修は一時的で、役員として関わるのも困難でした。そこで藤本さんのコンサルティングに出会い、「見える化」「考える化」「行動化」のツールを活用することで、実際に最終回が終わる月にコンサル契約が取れ、その後も継続契約に繋がっています。ノウハウを実践することで顧客満足度も向上し、他業務にも好影響が出ています。卒塾後には全国の卒塾生が集まるサミットで、それぞれの実践事例を元により深く学ぶ機会もあります。ぜひ受講をお勧めします！

